ISSN 0919-4657

KONC

Bulletin of Kansai Organization for Nature Conservation

関西自然保護機構会誌

23巻1号（通算41号）



2001年6月
関西自然保護機構

表紙の言葉

「アサギマダラ」

写真・文　桜谷　保之

マダラチョウ科に属する大型のチョウで，その名のとおり翅は浅葱色（水色）とアズキ色からなる優雅なチョウである。マダラチョウ科はもともと亜熱帯～熱帯に繁栄するグループで，南西諸島では５種類ほど知られているが，本州では本種だけが定着している。幼虫はキジョランやイケマ，オオカモメヅルなどのガガイモ科植物の葉を食べるが，各地に普通なガガイモはほとんど食べない。成虫は花の蜜を吸い，特にヒヨドリバナを好む（写真）。ほぼ日本全土に分布し，本州では比較的普通に見られ，特にデットリスト種等には指定されてはいない。

最近の研究で，本種はアメリカ大陸のオオカバマダラのように長距離を移動することがわかってきた。これは一度成虫を捕虫網で捕まえて，翅に油性ペンで番号や記号を記入して再び放し，各地で再び捕まえ（再捕）られた個体を報告するという方法で確認されている。現在ではこうしたネットワークが整備されており，情報が迅速に伝達され集計されている。これまでの報告では，近畿地方でマークした個体が沖縄や喜界島などの南西諸島で再捕された例がいくつかあり，また，その逆の例も報告されている。さらに，最近は台湾でマークされた個体が本州（滋賀県比良山等）で再捕された例があり，かなりの長距離を飛翔移動することがわかってきた。本種は季節的に移動し，春季には南方から北方へ移動し，秋にはその逆のコースをたどることが明らかにされつつある。本種はキジョランなどの葉の裏で幼虫で越冬することが多く，これは本州でも確認されているが，多くの個体は南西諸島以南の地域へ移動して越冬するようである。春にこれらの個体から羽化した成虫が北方をめざして移動し，本州等に移動してきた個体はイケマなどの植物に産卵して１～２世代を経過するものと考えられる。

夏季にはこうした成虫が1000ｍくらいの山の頂上部に集まり，近畿地方では比良山系や金剛山系，大峰山系などで多数観察されることが知られており，ひと夏に数1000匹もの成虫がマークされることも珍しくない。夏に山地で過ごした成虫は秋になると山を降りて，南紀等の低山地や平地に移動し，しばしば市街地でも観察されることがある。また，愛知県伊良湖岬等ではこうした移動の途中の成虫が観察されており，ちょうどサシバなどの猛禽類の渡りと同様な現象を示すのは興味深い。

自分がマークした個体がいつかどこかで，誰かによって再捕されることは渡り鳥のルート解明のように学術的にも大変意義があり，また，夢のあることでもあるので，毎年アサギマダラのマーキングに参加する人は多く，それだけ貴重な成果も増えつつある。今後は近隣諸国との協力で，本種の生態の解明がさらに進むものと期待される。

関西自然保護機構（KONC：Kansai Organazation for Nature Conservation）

KONC は自然環境保護にかかわる人たちや関心を持つ人たちを幅広く組織して，自然環境保全に関する各分野での研究を結集し，その研究の進歩と自然環境の保護・保全のために努力することをめざして，1978 年に創立されました。

KONC はその活動の成果と，会員個々人の学識と経験の蓄積にもとづいて，近畿地方に於ける広い意味での自然保護の諸問題に対する有力なアドバイザリー・ボディ（助言勧告機関）として，社会の要請にこたえることを企図しています。

現在，次のような活動をしています。

1. 基礎研究の実施
2. シンポジウム・セミナー・講演会などの開催
3. 現地見学会の開催
4. 研究助成金の交付
5. 会誌・連絡紙の発行
6. 自然保護に関する基礎資料の収集と配付
7. 自然保護および自然環境保全に関する提言と助言
8. 国内外の諸団体との連絡・協力

会の活動は，個人会員・維持会員の会費により，まかなわれています。